科目ナンバリング			
授業科目名 <英訳>	ラテン語A Latin A	担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 西井　奨

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	水2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

古代ローマの時代に用いられ、そして書き伝えられてきたラテン語文献は、
古典ギリシア語文献と共に「古典」（Classics）として位置づけられており、
人文学の豊穣たる源泉として今日なお強い影響を与え続けている。

また中世・ルネサンス期においてもラテン語は教養ある人々の間で用いられ続けてきたので、
西洋に関することを本当の意味で学び研究する上では、ラテン語を知っていることは必須であるといえる。

また、ラテン語を学ぶことは言語学的にも意義深い。
ラテン語学習は、同じ印欧語族の英仏独西伊といった現代語の理解にも新たな視野を開く。
またその精緻な文法体系は、学習者の世界の認識そのものにも新たな枠組みを与えてくれることだろう。

このラテン語A・Bでは、ラテン語の初級文法を習得し、
ラテン語で書かれた文章を読み理解することができるようになるのを目指す。

[到達目標]

前期開講のラテン語Aでは、ラテン語の基礎的な語彙と共に名詞変化・形容詞変化・動詞変化について知識を深め、簡単なラテン語文章を読解できるようにする。

[授業計画と内容]

教科書『新ラテン文法』を毎回2〜3課ずつ進める。
前期では、第30（XXX）課まで終える予定である。
具体的には、以下の通りである。

1　ラテン語概論／発音・アクセント／第一・第二活用動詞（第1課・第2課）
2　第一・第二変化名詞（第3課・第4課）
3　第一・第二変化形容詞／前置詞（第5課・第6課）
4　第三・第四活用動詞／人称代名詞（第7課・第8課）
5　未完了過去／第三変化名詞(1)（第9課・第10課）
6　未来／指示代名詞（第11課・第12課）
7　第三変化形容詞(1)／完了（第13課・第14課）
8　第三変化名詞(2)／関係代名詞（第15課・第16課）
9　過去完了・未来完了／第三変化名詞(3)（第17課・第18課）
10　疑問文／命令法（テキスト第19課・第20課）
11　第三変化名詞(4)／受動（第21課・第22課）
12　第三変化形容詞(2)／副詞（第23課・第24課）
13　完了・受動／比較級／形式受動（第25課・第26課・第27課）
14　第四変化名詞／不規則な比較級／命令法受動（第28課・第29課・第30課）

ラテン語Ａ(2)へ続く↓↓↓

ラテン語Ａ(2)

15 定期試験
16　フィードバック（Web上にて行う）

なお、授業時の手応えに応じて進度を変更する可能性がある。

毎回、各課の練習問題のラテン語和訳をしてきてもらうことになるが、
その練習問題の主眼となる箇所について小課題をあわせて課す。
この小課題は毎回提出してもらう。

ラテン語の発音は、日本人にとって極めて容易なので、
音読練習を積極的に行ってラテン語を頭に定着させていくことが薦められる。

この教科書『新ラテン文法』は、詳細さでは随一であるが、
レイアウト面で見づらく、説明も難解なものになっている箇所がいくつかある。
その点を補うものとして、授業では分かりやすい解説プリントと、
分かりやすい名詞・動詞の変化表を配布する。

[履修要件]

後期開講のラテン語Bも受講することが望ましい。
一年間どっぷりとラテン語に浸るのも、また密やかな楽しみが見出せるものである。

[成績評価の方法・観点]

基本的に、定期試験の結果で判断する。
毎回提出してもらう小課題は、定期試験での失点を補うものである。

[教科書]

松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』（東洋出版）ISBN:978-4809643019

[参考書等]

（参考書）
水谷智洋 『改定版　羅和辞典』（研究社）ISBN:978-4767490250
教科書『新ラテン文法』は、伝統的に日本のラテン語教育で用いられてきた。
その意味では、日本におけるラテン語教科書の古典であるともいえる。
それゆえこの教科書を一冊学び終えれば、相当の達成感を得られることであろう。

この授業でラテン語辞典はなくても受講は可能であるが、手許にあった方が心強い。また身近に目にしたラテン語の意味を調べる際にも便利である。

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生は毎回、習った課の練習問題のラテン語文を和訳をしてくること。
この際、ラテン語文の個々の単語の情報、すなわち名詞・形容詞ならば性・数・格、
動詞ならば法・時称・相・人称/数を、必ずメモするようにしなければならない。
このような作業がしやすいように、練習問題については、
行間を大幅にとったワークブック形式のものを別途配布する。

[その他（オフィスアワー等）]

このラテン語A・Bは、人文・社会科学系科目群であるが、外国語科目群と同様に「語学を身につける」という強い意識をもって臨むことが肝要である。

ラテン語Ａ(3)へ続く↓↓↓

ラテン語A(3)

また予習・復習に大幅に時間を使うことになると思われる。
しかしその努力の先には、輝かしいものが待ち受けているのもまた確かである。